

クーリングユニット 据付説明書

取付(据付)作業を行う前に、必ず、この取付(据付)説明書のほか、取扱説明書もお読みの上、作業を行ってください。

● 安全のために必ず守ること

- ・ご使用前に、この「安全のために必ず守ること」をよくお読みのうえ正しくお使いください。
- ・ここに示した注意事項は、安全に関する重大内容を記載していますので、必ず守ってください。

表示と意味は次のようになっています。

⚠ 警告	誤った取扱いをしたときに、死亡や重傷等の重大な結果に結び付く可能性が大きいもの。
⚠ 注意	誤った取扱いをしたときに、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があるもの。

本文中に使われる“図記号”の意味は次の通りです。

⊘	絶対に行わないでください。
①	必ず指示に従い、行ってください。
②	必ずアース工事を行ってください。
⚡	電源は必ず切ってから行ってください。
⚡	触れたり、指や棒を入れないでください。

・お読みになった後は、説明書とともに、お使いになる方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

⚠ 警告

① 据付工事は、据付説明書に従う

- ・据付工事は、この据付説明書に従って確実に行ってください。据付不備があると、冷媒漏れや感電・火災の原因になります。

② 据付は、ユニット質量に耐える所に行う

- ・据付は、(製品、ユニット)質量に十分耐えるところに確実に行ってください。強度不足や取付が不完全な場合は、(製品、ユニット)の転倒・落下によりケガの原因となります。

③ 電気工事は、基準・規程に従う

- ・電気工事は、「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」(及び据付説明書)に従って施工し必ず専用回路を使用してください。電源回路容量不足や施工不備があると感電、火災の原因になります。

④ アース工事を行う

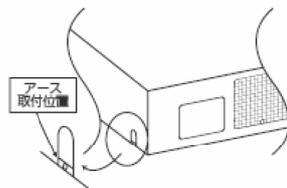
- ・電気工事業者によるD種接地工事を実施してください。アースが不完全な場合は感電の原因となります。

⊘ 水のかかる場所に据付けしない

- ・水のかかる恐れのある場所に据付けしないでください。絶縁低下から漏電・感電の原因になります。

⊘ 保護装置、安全装置の設定値変更はしない

- ・(保護装置、安全装置)の設定値変更はしないでください。設定値を変えると(製品、ユニット)の破壊、発火の原因になります。



⚠ 注意

① 漏電遮断装置を取付ける

- ・漏電遮断器を取付けてください。漏電遮断器が取付けられていないと感電の原因になります。

② 換気をよくする

- ・換気をよくしてください。万一冷媒が漏れると、酸素欠乏の原因になることがあります。

③ 排水工事を確実に行う

- ・排水工事を(据付説明書に従って)確実に行ってください。ドレン水などで保冷库設置場所の床面及び保冷库内を濡らす原因になることがあります。

① 付属品は、確実に取付ける

- ・付属品は、確実に装着してください。装着を行わないと冷媒漏れによる発熱、発火の原因になることがあります。

⊘ 可燃性ガスの近くに据付けない

- ・可燃性ガスの漏れる恐れがある場所への据付は行わないでください。万一ガスが漏れて(製品、ユニット)の周囲に溜まると発火の原因になることがあります。

● 据付場所の選定

1. 搬入

できるだけ水平に保ち静かに搬入してください。30°以上は傾けないでください。やむを得ず傾ける場合は、最短時間とし、その後、必ず水平な状態で2～3時間放置した後に、試運転してください。

2. 据付

⚠ 警告

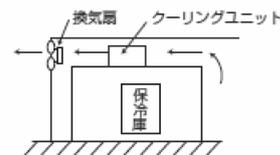
据付は、質量に十分耐える場所に確実に行う。強度の不足な所に据付ると、ユニットが落下しケガの原因になります。

(1) 水のかからない所

- 雨水、その他、水が直接かからない所へ据付けてください。(本製品は、屋内設置専用です。)

(2) 風通しの良い場所

- 凝縮器吸込空気温度が40℃を越える場合は、換気扇を設け40℃以下にしてください。
- 厨房室や換気の悪い場所でお使いになりますと熱がこもるおそれがあります。通風については特に配慮してください。



(3) 水平な所

- クーリングユニットは必ず水平に設置してください。特に冷却部が傾斜してドレンパンが逆勾配になると、排水性が悪くなりドレン水がオーバーフローすることがあります。

(4) 保冷库設置場所の床が濡れて良い所

- 使用条件によっては保冷库の外表面に結露したり、ドレン水が蒸発しきれずに保冷库(クーリングユニット)から水滴が落下して、床面を濡らすことがあります。床が濡れても良いコンクリート土間などに設置してください。

⚠ 注意

廊下などの住居部や、床が濡れると困る場所には絶対設置しないでください。

⚠ 注意

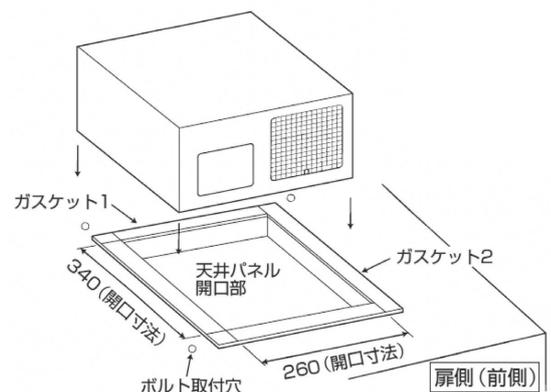
温泉地域や、腐食性ガスなどの環境には設置しないでください。腐食によりユニットが故障する原因となります。

1. クーリングユニットの取付

- (1) クーリングユニットを保冷库内より取出し、天井面にのせてください。(ユニット背面のボルトの取付け穴に合わせのせてください。)

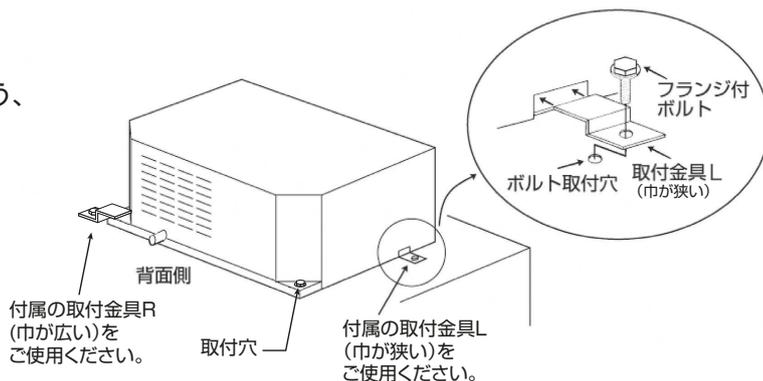
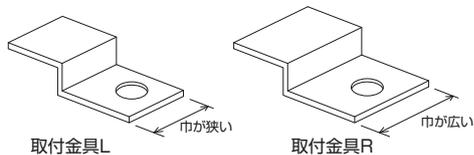
※ユニットをのせた状態で、ユニットを横にずらすとガスケットを破損するおそれがありますので注意してください。

ユニットの位置を調整する場合は、必ず、ユニットを持ち上げた状態で、行ってください。



(2)クーリングユニットを保冷库に固定するときは、右図のように1ヶ所をボルト、2ヶ所を取付金具+ボルトにて固定してください。(ボルト、取付金具は付属)

※取付け金具は2種類(LとR)ありますので、右図を確認し取付ける位置を間違えないよう、注意してください。



※ボルトを締付けすぎると保冷库のナット部分が浮き上がるおそれがありますので注意してください。

(3)クーリングユニットの取付完了後、庫内よりすき間がないか必ず確認してください。(光もれがないか確認してください。)

⚠ 注意

1. 板金のコーナー部等で怪我をしない様に手袋等の保護具を着用して作業を行ってください。
2. 作業中は冷却ユニットの電源が切れていることを確認して作業を行ってください。

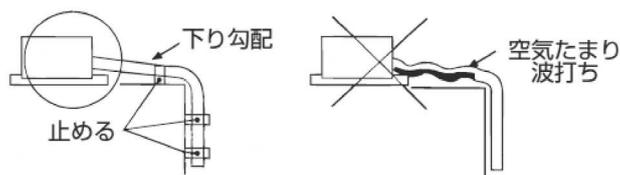
2. ドレン配管取付・注意事項

(1)ドレンホースをユニットの背面パネル側にあるドレンソケットの根元まで確実に差し込んでください。

ドレンホースはクリップにて保冷库に固定されておりますので、一度、クリップを緩め、ドレンホースをドレンソケットに差し込んだ後、再度、クリップにて、確実に固定してください。

※ドレン配管に不備があるとドレン排水不良により保冷库設置場所の床面及び保冷库内を濡らす原因になることがあります。

(2)ドレン配管の取付後、ドレン配管が、右図のように必ず下り勾配になっていること、また、空気たまりがないこと、配管の波うちがないことを確認してください。



- ・粘着テープ固定具が外れるようであれば、PTTネジ等で固定してください。
- ・施行時などにドレンホース内に物が混入しないように注意してください。
- ・ドレン配管を延長する場合は、水道用の塩ビ管などを利用しドレン水が漏れることのないように施行してください。